

略 歴

東京都健康長寿医療センター
病院歯科口腔外科部長
研究所自立促進と精神保健研究チーム研究部長



平 野 浩 彦（ひらの ひろひこ）

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士
平成 2 年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科 研修医
平成 3 年 国立東京第二病院 口腔外科 研修医
平成 4 年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科主事、
平成 14 年 同センター医長
（東京都老人医療センター・東京都老人総合研究所の組織編成により東京都健康長寿医療センターへ名称変更）
平成 21 年 東京都健康長寿医療センター研究所 専門副部長
平成 28 年 同センター病院 歯科口腔外科 部長
平成 31 年 同センター研究所 口腔保健と栄養研究テーマ研究部長（兼任）
令和 4 年～ 現職

日本老年学会 理事
日本サルコペニア・フレイル学会 理事
日本老年歯科医学会 理事・専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師
日本口腔検査学会 理事
日本老年医学会 代議員
日本大学 客員教授・東京歯科大学 非常勤講師・昭和大学歯学部 非常勤講師

高齢者の口腔機能測定結果をどう考える？：口腔機能低下症7項目を中心に

平成30年「口腔機能低下症」が診療報酬病名として新設され、その後も学際的議論が継続的に行われた。その中で、口腔機能低下症検査項目（口腔衛生、口腔乾燥、咬合力、舌口唇運動機能、舌圧、咀嚼機能、嚥下機能）の結果解釈についての議論、さらには新しい測定機器導入の提案も行われた。以上を受け「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」（日本歯科医学会；令和4年12月）に口腔機能低下症診断に資する新たな複数の機器が追記され、それらの機器開発には複数の企業参画があったことは、本領域の注目度の表れと捉えることが出来よう。

高齢期歯科口腔保健活動はここ10数年で大きく変化した。その一つが、歯の形態回復を目的とした「治療中心型」から、口腔機能の維持・改善を目的とした「口腔機能の管理」への変化であり、厚生労働省からの歯科医療の需要の将来予想においても示されている。こういった時代の需要変容に応じ口腔機能低下症が歯科保険病名として新設され、口腔領域機能に注目が高まり、オーラルフレイル概念も日本発で提唱された。口腔機能管理を検討する上で口腔の特異性を再認識する必要がある。健康寿命延伸で注目される高齢期歩行機能の管理に目を向けると、当然であるが直立二足歩行を前提とした疫学データを基に課題が整理され、標準化された管理法が提案されている。一方、高齢者の口腔環境（現在歯数、機能歯数など）は、例えるなら“直立二足歩行”のみではなく多様である。従って、咀嚼筋やその運動の加齢変化等に口腔環境の状況も加えた口腔機能管理に関する知見整理が必要である。咬合力検査機器として新たに採用された口腔機能モニター（Oramo-bf, 住友理工）なども含め、口腔機能低下症の資する各測定項目の特性を踏まえその結果の解釈について参加者の皆様と考えたい。

